

横浜市消防操法技術訓練会に港北消防団の代表選手として参加しました。当初この大きな舞台に自分が努まるのか不安でしたが、毎週汗びっしょりになって行われた訓練を重ねていくうちに、スピード、正確さ、美しさ、団結力など消防操法の奥深さを感じ、「もっと上達したい」と思うようになりました。何より魅力を感じたのは、支えてくれた消防団員の皆様の温かさでした。これからも地域の安全のために消防技術を磨いていきます。



港北の消防

第72号

令和8年1月1日

編集：横浜市港北消防団（港北消防署内）

『港北の消防』第72号 編集後記

消防団は、火災等災害出場・各町内会行事の参加また防災指導など年間数多くの活動を行っています。より広く皆様にご理解いただけるよう、広報誌「港北の消防」を年2回発行しています。「港北の消防」をご覧ください、消防団に関心頂けましたら幸いです。

消防団では団員の募集を行っています。地元愛のある方、消防団に入団してみませんか。
(小泉 守)



【第23期】編集委員

【本部】鈴木 基祥（編集顧問）
【本部】廣井 徳栄（編集委員長）

【第一分団】加藤 英美
【第二分団】新井 武仁
【第三分団】小泉 守
【第四分団】鈴木 勝博

【第五分団】莊山 敦
【第六分団】手塚 進一
【第七分団】中山 政光
【第八分団】畑野 悦子

団員募集広告



港北消防団 団員募集中！

あなたのチカラを消防団に！！

●入団条件

1. 満18歳以上の人
《性別・国籍不問》
2. 区内在住・在勤・在学の人



※消防団に入団すると、活動等に応じて年額報酬や活動報酬が支給されます。

▶詳しくは「港北消防団」ウェブページにてご確認ください。



港北消防団ウェブページ 電子申請による入団



日産スタジアムピッチトラックウォーク

第一分団 副分団長 加藤 英美

Jリーグの社会連携活動「ソナエルJapan杯2025」の一環として8月23日（土）に行われた横浜F・マリノスのホームゲームにおいて、市民の皆様の防火、防災意識の向上を目的に体験型ブースの出店、はしご消防車の搭乗体験等を行いました。

夜の横浜F・マリノスのゲームのハーフタイムには横浜F・マリノスのキャラクターのマリノスケと共に消防職員及び消防団員が横断幕（eパーク、熱中症予防、エキスポ）と、のぼり（防火、救急車適正利用、エキスポ）を持ってトラックを1周しました。

数万人の観客の中、20分ぐらいの時間をかけピッチトラックウォークをして素晴らしい広報ができたと思います。



港北わくわく消防フェスタ

第三分団 第3班 班長 工藤 正樹

令和7年9月6日（土）にトレッサ横浜南棟センターガーデンにて「港北わくわく消防フェスタ」が開催されました。当日は沢山の子どもたちがご家族とご来場し楽しんでおられ、また消防・防災に関心のある方々も熱心に見学されました。会場では、消火器ストラックアウトや消防輪投げ、消防車・救急車の展示、救急隊員体験等の体験スタンプラリーや、消防バッテリーカーの試乗やぬりえで各所に列を並べ、特に消防車展示での子供への消防服の試着や乗車体験では、終了時間が過ぎてしまう程の大盛況で終わりました。

今回、ご来場頂いた多くの方が、消防・防災に関心をいただき、今後の防災・災害の対策をして頂ければと思います。また、来場した子どもたちが消防関係に興味を持ち、大人になったら、消防士や救命士もしくは地域の消防団になってくれる事を切に願います。



イオン横浜新吉田店での防災啓発イベント

第六分団 第7班 班長 西山 浩一

令和7年9月21日、イオン横浜新吉田店にて行われた防災啓発イベントに、港北消防団から第六分団第7班、第八分団第6班が参加しました。

消防団としては積載車の展示、子どもたちには子ども用防火衣装着や積載車の乗車体験、見学されている方々に積載してある資機材の説明や消防団の役割を説明し、団員募集も忘れずにアピール。

また、八分団6班によるAEDを使用した応急手当体験もなかなか好評で、限られたなかで大勢の方々に体験していただきました。

子どもたちにとっては、「消防隊・消防団関係なく赤い車」はすべて消防車ですが、わくわくドキドキして来てくれます。そしてさらに興味を持ってくれた子どもたちには「将来よろしくね」と声をかけていました。



署団連携訓練

第七分団 第6班 田村 一郎

9月28日(日)、「震災時の火災を想定した消防隊と消防団の連携訓練」に参加しました。

初めての訓練で緊張しましたが、隊員の皆様の迅速かつ的確な動きに学ぶ事が多く、放水訓練では水圧の強さや連携の重要性を実感しました。災害時には一人の力では限界があり、仲間との協力が不可欠であることを改めて感じました。

今回の経験を通じて、消防団員の役割を認識するとともに、地域を守る一員として成長していきたいと強く思いました。

今後は訓練で得た学びを活かし、技術を磨き、経験を高め、いざという時に頼れる消防団員となれる様に努力を続けていきます。



見て、触れて、学ぶ、第八分団防災研修 第八分団 第2班 班長 手島 恵梨花

10月1日、第八分団女性消防団員を対象とした防災バス研修が行われました。インフラと防災について体験的に学ぶ貴重な機会でした。

まず向かったのは『がすてなーに ガスの科学館』。ガス火を操作するなど五感で体験、省エネや災害時のガスの復旧方法から、ガスの製造・供給時の安全対策まで広く学びました。

次は『東京都 虹の下水道館』。透明な床下を流れる水を辿り、最後は実物大の下水管の中を見学という貴重な体験をしました。綺麗な水が作られる水循環の大切さを再認識しました。

締めくくりは『そなエリア東京』の「東京直下72時間ツアー」。エレベーターを降りるとそこは倒壊した街並み、参加者全員が被災者となりリアルに体験。街中の看板に災害時のための情報があることや、いざという時の行動や備えの重要性を再認識、いかに命を守るかに直結しているか痛感しました。「今災害が起きたら私は人命救助のリミット72時間を生き残れるか…?」と考える帰りのバスの道のりでした。

移動中も消防・防災クイズで盛り上がり、女性消防団の一層の結束も実感しました。今回の研修で得た学びを安全で住みよい地域社会のために、今後の消防団活動に活かしていきたいと思えます。



場外離着陸訓練

第五分団 副分団長 莊山 敦

令和7年10月21日(火)慶応義塾大学矢上キャンパス内のグラウンドにて行われた消防ヘリコプター場外離着陸訓練に参加。金沢区から神奈川県全域を網羅し災害、人名救助などに出勤する消防ヘリコプターを間近にし、新しい発見と体験を感じた。

消防ヘリコプターが着陸する際の吹き下ろし風は台風並みに強いいため砂や小石等の飛散防止が必要となる。我々消防団は事前に消防隊と協力し、グラウンド内全域を可搬式小型ポンプとY字媒介を使用して放水し地面を濡らす飛散防止活動を行った。消防ヘリコプター着陸後には航空隊職員による機体説明、質疑応答、写真撮影などを行う。

横浜消防には現在2機の消防ヘリを所有しており、有事に備えて日々訓練しているとのこと。一般の見学者も参加し有意義な訓練であったため、是非、毎年やってほしいと思った。

港北区は横浜市の中でも一番人口が多いので、災害時の意識の高さをみんなでもってほしいと強く思うのであった。



妙蓮寺フェスをふりかえり

第二分団 第3班 班長 児島 俊夫

消防団は会議で、篠原地区5個別れている班と女性消防団で受付、救急車・消防車の前で消防・救急服を着て記念撮影を、そして我が班は動物、食べ物、剣他、多彩な風船を作成できる大道芸の団員と消防車バッテリーカーの担当になりました。

小雨の中、沢山のお子様と親御さんが来てくれ終わりに近づくと、また並んでくれたので何回も乗せたり、周回を増やしたりしました。

また来年は晴れて開催できるよう篠原地区消防団一同願います。



新横浜パフォーマンス2025に参加して 第四分団 第2班 班長 池谷 誠

今年は11月8日(土)・9日(日)の2日間、「ふるさと港北ふれあいまつり」「秋のヨコアリくんまつり」と同日開催となり、3つのイベントが街を彩り、祭りの連鎖として、新横浜全体が一体感をもって盛り上げりを魅せました。消防団も駅前東広場にて車両展示、子供用防火服の着装など行いました。多くの方がブースに訪れる中、団員の家族も激励に来てくれました。子供達が笑顔で喜んでくれた事がなによりよかったと感じていますし、港北消防署と消防団が協力してイベントを盛り上げる事に意義があったと思います。

このようなイベントや「祭り」をやることで人々が集い、人が人を思いやる事、日本人の「和」の文化の「なごみ」や「やわらぐ」といった調和と共存で成り立っている事を「新横浜パフォーマンス」で感じました。

いつか起こる大規模災害においても人と人が互いに助け合う事、「和」をもって災害に当たることのできる消防団員であろうと心得ました。

